

本無産大衆の政治勢力の醸成せる「労働農民党」の成立、発展となつて現はれたのである。

この時に當つて、かの社会民主党、日本農民党の如きは、急激に目覚めつ、ある無産大衆を欺瞞して、小ブルジョア政党の下に拘束しつ、資本家階級の陣営に費り込まんとするものあり、また、かの日本労働党は、一応は小ブルジョア政党に對する反對を表明しつ、あるま、一面に於て、唯一の階級的大衆的労働農民党に對立抗争しつ、大衆を彼りの指導の下に——經濟闘争及び組合主義的政治闘争の限界に——留めんとするものがある。

但し、全労働大衆の自覚めつ、ある力は、如何なる妨害にも屈するものではない。

労働農民党は、それの前身たる農民労働党を解散せしめたる支配階級の暴壓を排し、またそれを小ブルジョア党に交臂せしめんと努力し、有翼幹部の乗録なる陰謀を排して、今や、唯一の、階級的大衆的労働党として、既成のあらゆる資本家的政党、及び無産者階級の後面の下にその資本家的の本質をかくす諸種の所謂無産政党に對立抗争しつ、ある。

かゝる状況の下に展開しつ、ある資本の攻勢は、無産大衆の骨肉の最後の一片をも犠牲としつ、反動的な資本家的政治形態へ発展せんとする傾向を示し、また、二、に初めて公然とその独立の政党——労働農民党——を組織するに至つた所の、無産者階級の政治勢力の発展は、今や

極度に壓迫搾取せられつ、ある無産大衆の日常の利益を自りの力によつて奪還しつ、政治的自由の獲得に向ふものがある。

わが労働階級對立闘争の、かくの如き発展段階は、必然に、わが国の組合運動の現象を段階、及びその將來への轉向を規定する。

労働者組合、農民組合は、全運動の急激なる発展の下に、幾多の小組に分裂し、所謂左右兩翼の對立闘争を行ひ来たつたし、又行ひつ、ある。これは、労働大衆が、急激に、それの全階級の政治的醸成を遂行する為に、必然に過程しなけれぬなりぬ道行であつた。そしてその成果は、階級的大衆的労働農民党のうちに、最も明瞭な形態に於て、結晶せしめられてあるのである。

但し、今や、階級的大衆的労働農民党の醸成を遂げたいわが無産者運動は、それの力を一層拡大発展せしめんが爲に、殊更に、統一せられたい組合の力にまたなけれぬなりぬ。また過去の運動の急激なる展開の下に、必然に違ひやられたところの、かの組合の分裂を克服しなけれぬなりぬ。そして同時に、従来資本の権取に打ち奪されてあつたところの、未組織大衆を組織しなけれぬなりぬ。

かくして、全階級的大衆的労働農民党と、新たに組合統一運動とは、相伴つて発展する。従つて、眞に階級的統一運動は、必然に、労働農民党を支持するものにならぬ。またそれは、労働大衆のあらゆる日常の利益を、全階級の闘争と結び付けて、勇敢にありゆか日常